



## 考える子どもを育てるための“仕掛け”

副園長 澤田 亮

今年度、湯島幼稚園では教育目標の重点として、「考える子ども」の育成を目指して教育活動を進めてきました。先日、今年度の教育活動を振り返った際に、1人の教師が「考える子どもが育ったか、評価するって難しいですね」と言いました。確かに、人の考えていることは周りの人には分からないですし、子どもの考える力が育ったかどうかを読み取ることは難しいと思います。幼稚園で子どもたちは“何を”“どうやって”考えているのでしょうか。

年少組ではヒヤシンスやチューリップを育てています。球根を植えた翌日に「まだ大きにならないね」とつぶやいたり、数日後に「見て！根っこが長くなっている！」と驚いたりしました。自然のものを育てると、その成長や変化にたくさんの気付きがあり、子どもたちの好奇心も膨らみます。

年中組では、遊ぼうデーで行った餅つきの翌週、餅つきごっこを楽しんでいました。段ボールで作った臼と杵で、「よいしょーよいしょー」と餅をついたり手返しをまねしたりしていました。また、ビニールに包まれた餅に色画用紙を貼って「これはおしょうゆで、こっちはきなこ、キャラメル味も食べようね」とおうちごっこをしていました。大人の様子をよく見て、遊びとして再現していました。目や耳、舌で味わった直接体験したことが強く心に残ったのでしょうか。

年長組では投げゴマに挑戦しています。最初はその難しさから、すぐに諦めてしまう子もいました。しかし、自分なりに試したり友達の姿に刺激を受けたりして、少しずつ回せるようになっていきます。コマ回しの中には、紐の巻き方やコマの持ち方、投げ方など、たくさんのコツがあります。自分なりに気付いて試して挑戦することで、達成感や自信につながっていきます。

子どもたちは幼稚園で過ごす中で、たくさん考えて遊んでいます。考える力は「見る力」「気付く力」「試す力」「再現する力」として現れています。そして、その考える力を育てるために、教師はたくさんの“仕掛け”を準備しています。もも組では、球根からの育ちを写真で掲示していました。ばら組では、餅つきごっこを予想して臼と杵、すぐに作れる餅を準備していました。ゆり組では、友達の回す様子を見る機会を作ったり、チャレンジカードを子どもたちと一緒に作ったりしました。また、今年度は都立工芸高校の生徒さんたちが、子どもたちのためにコマの回す台を作ってくれます。それも大きな刺激になるでしょう。

考える子どもを育てるためには、大人はもっと考えなければなりません。子どもたちが見て気付いて試して、遊びを楽しめるように、私たちは今日もたくさんのことを考えて保育をしていきます！

